

日露青年交流センター
2018年度 日本語教師派遣事業

帰国報告書



ノヴォシビルスク州 ノヴォシビルスク市

ノヴォシビルスク国立工科大学

Новосибирский Государственный Технический Университет

齋藤 和恵

1. 年間業務日程

2018年9月	着任 前期授業開始
10月	モスクワ「日本語教育学会議」、「第31回モスクワ国際学生弁論大会」
11月	ノヴォシビルスク国立工科大学 外国語会議
12月	日本語能力試験 学内スピーチ大会 前期授業終了
2019年1月	前期試験 冬季休暇 来学期の打合せ
2月	後期授業開始
3月	西シベリア地域大学生東洋語弁論大会「シベリア万華鏡」 西シベリア日本語教育協会 勉強会
4月	東シベリア地域日本語弁論大会
5月	西シベリア地域日本語弁論大会 ノヴォシビルスク国立工科大学「東洋文化の日」 後期授業終了 4年生卒業試験
6月	後期試験 来年度の打合せ

2. 赴任校の概要

大学名：ノヴォシビルスク国立工科大学

(露)：Новосибирский Государственный Технический Университет

(英)：Novosibirsk State Technical University

学長名：アナトリイ・バタエフ 理学博士(エンジニアリング)、教授

(露)：Батаев Анатолий Андреевич, д.т.н., профессор

(英)：Bataev Anatoly, D.Sc.(Engineering), Professor.

所在地・連絡先

(露)：Россия 630073, г.Новосибирск, пр.К.Маркса, 20

(英)：Russia, 630073, Novosibirsk, K.Marksa-av.20

Tel：+7(383)346-08-43 Fax：+7(383)346-02-09

ウェブサイト：[www.nstu.ru](http://nstu.ru)(<http://nstu.ru>)

所属学部・学科名：人文学部 国際関係・地域研究学科

(露)：Факультет Гуманитарного Образования(ФГО),

кафедра Международных отношений и регионоведения(МОиР)

(英)：Faculty of Humanities, Department of International Affairs and Regional Studies

Tel：+7(383)346-05-64

国際部担当者及び連絡先

- ・ **国際部長**：ネクラソフ・ウラジミル・ウラジミロヴィチ
(露)：Некрасов Владимир Владимирович
(英)：Necrasov Vladimir Vladimirovich
Tel：+7(383)346-03-01; 346-05-11 Fax：+7(383)346-02-09
- ・ **国際部担当者**：アルセノワ・オルセア・アレクサンドロブナ
(露)：Арсенова Олеся Александровна
(英)：Arsenova Olesya Aleksandrovna
Tel：+7(383)315-33-98 Fax：+7(383)315-33-98
- ・ **受け入れ担当者**：オリガ・ジネヴィチ・ウラジミロブナ 地域研究学科学科長
(露)：Зиневич Ольга Владимировна
(英)：Zinevich Olga
Tel：+7(383)346-05-64 Fax：+7(383)346-05-64

日本語教育コース設置年：2001年

日本語コース責任者：モスクヴィナ・オリガ・ヴァシリエブナ

- (露)：Москвина Ольга Васильевна
- (英)：Olga Vasilievna Moskvina
- Tel：+7(383)346-05-64 Fax：+7(383)346-05-64

日本語コースカリキュラム

日本語コースのある人文学部国際関係・地域研究学科はアジア地域（日本語・中国語・韓国語）とヨーロッパ地域（ドイツ語・フランス語・ポーランド語）に分かれている。アジア地域を選択している学生は第1外国語として日本語または中国語、韓国語を学び、第2外国語として英語を学んでいる。ヨーロッパ地域を選択している学生は第1外国語として英語、第2外国語として選択言語（ドイツ語・フランス語・ポーランド語）を学んでいる。日本語コースのコマ数は以下の通りである。

クラス	週の授業数 (1コマ90分)	報告者の授業数
1年(2クラス)	5コマ	1コマ(後期のみ)
2年(2クラス)	4コマ	1コマ
3年	4コマ	1コマ
4年	4コマ	1コマ

日本語履修学生数とレベル

1年生	23人	：	初級前半
2年生	15人	：	初級後半
3年生	10人	：	中級前半
4年生	7人	：	中級前半

日本語教師数

ロシア人教師 2名 日本人教師 1名（報告者）

日本語履修生の卒業後の進路

民間企業や公務員、通訳会社などに就職、または大学院進学 of 学生もいる。日本で働きたいと考え、就職先を探している卒業生もいる。進路としては、旅館に就職した学生や在学中にインターンをしたところで1年間働くという経験をしている卒業生もいる。今年度の卒業生は、ロシアでの就職を希望している学生、大学院進学を希望している学生、日本留学を考えている学生がいる。

3. 赴任者の日本語教育業務

学年・年間シラバス

全学年で行った活動として、授業の始め10分程度多読本を読む時間を設けた。本を読むことが好きな学生が多かったので日本語の本に触れてもらういい機会だった。学生から読むスピードが速くなったと思うと言われたことは良い成果だと思う。

・1年生①（後期のみ）

使用教材：初級日本語上、わたしのにほんご、毎日練習！リズムで身につく日本語の発音など

授業活動：既習項目を使つての発話練習を行った。場面設定をしっかりと練習するよう心掛けた。また日本語の発音に慣れてほしいと思い、発音練習も行った。年中行事に合わせて文化紹介の時間も設けた。

評価：出席、会話テスト、授業態度、宿題

所見：1年生はレベル別でクラス分けされており、①クラスは初めて日本語を勉強する学生が多いクラスだった。全体的に明るいクラスで反応もよかった。しかし、12人のクラスということもあり、発表の時や質疑応答など時間がかかってしまい、集中が切れてしまう学生もいた。グループに分かれて発表を行うなど、対策をしたが今後の課題の1つとなった。

・1年生②（後期のみ）

使用教材：初級日本語上、わたしのにほんご、クラス活動集など

授業活動：既習項目を使つての発話練習を行った。場面設定をし、会話をしてもらい、会話が

不自然な終わり方をしないよう注意をしながら進めた。年中行事に合わせて文化紹介の時間も設けた。

評価：出席、会話テスト、授業態度、宿題

所見：クラス分けにより、日本語を勉強したことがある学生が多いクラスだった。コミュニケーションもよく取れるクラスだった。様々な課題に対し、積極的に参加してくれる学生が多く、協力的だった。

・2年生

使用教材：初級日本語上下、シャドーイング、クラス活動集など

授業活動：前期はシャドーイングを行った。話すスピードの速い学生や言葉の区切りが気になる学生がいたが、みんなで一緒に CD に合わせて発音することで、間の取り方などしっかりでき、聞きやすい話し方になったように思う。その他、発話練習は既習文法を使って行った。

毎週宿題として日記を書いてもらった。写真も一緒に貼り付けてくれる学生や、絵も描いてくれる学生もいた。

評価：出席、口頭試験、授業態度、宿題

所見：2年生も1年生同様、2クラスに分かれていた。レベルは同じだったため、授業はほぼ同じ内容で進めた。ただ雰囲気は違うクラスだったため、進め方は学生の反応を見ながら進めるようにした。どちらのクラスも授業態度や宿題の提出率はよく、積極的に学んでくれた。

・3年生

使用教材：まるごと初中級 A2 など

授業活動：テーマをもとに授業を行った。まるごとテーマを用いて語彙の確認やテーマについて話し合ったり、多読本の聞き取り、内容まとめをペアで行い、発表してもらったりもした。その後、おすすめの本の紹介をしてもらうなど、テーマに関連のある発表なども多く行った。年中行事に合わせた文化紹介も行った。

評価：出席、発表・口頭試験、授業態度、宿題

所見：真面目に取り組んでくれる学生が多かったが、夕方からのクラスだったため、遅刻者が少々目立った。授業態度は問題なかったが、宿題の提出率が悪い学生も数名いた。聞き役に回ってしまう学生が何人かいるので、積極的に話を振るように心掛けた。

・4年生

使用教材：まるごと初中級 A2、ニュース記事など

授業活動：毎週、気になるニュース記事を選び、簡単に発表できるようにしてやることを宿題とした。宿題をもとにクラスで話し合いを多く持った。年間を通し、ニュース記事を使用して聞き取りや読解、記事をまとめて発表などを行った。他の学年同様、年

中行事に合わせた文化紹介も行った。

評価：出席、発表・口頭試験、授業態度、宿題

所見：1年間の日本留学から戻った学生が1名加わり、レベル差のあるクラスとなった。担当のロシア人教師にはできる学生に別課題を与えてもよいと言われたが、発話のクラスだったため、できれば同じ課題で進めたいと思い、学生から課題を提示してもらう形で気になるニュース記事の宿題を始めた。この取り組みは、学生の語彙も増えたと担当のロシア人教師から評価していただいた。

個人指導

スピーチコンテスト参加者への指導。3月ノヴォシビルスク国立工科大学主催の「シベリア万華鏡」へは8名、4月イルクーツクで行われた「東シベリア地域日本語弁論大会」へは2名、5月ノヴォシビルスクで行われた「西シベリア地域日本語弁論大会」へは5名参加。

「西シベリア地域日本語弁論大会」はモスクワ国際学生弁論大会の西シベリア地域の予選とも位置付けられている。今年度はノヴォシビルスク国立工科大学の3年生が1位になり、モスクワ国際日本語弁論大会への参加資格を得たが、現在、日本語・日本文化研修留学生プログラムを受験中のため、出場できるかは未定である。

課外指導

- ・日本語能力試験対策講座の開講（N5、N4、N3）。
- ・ノヴォシビルスク国立工科大学学生会議に審査員として参加。
- ・ノヴォシビルスク国立経済経営大学「学生会議」に審査員として参加。
- ・ノヴォシビルスク国立工科大学主催の西シベリア地域大学生東洋語弁論大会「シベリア万華鏡」の質問作成、質問員として参加。
- ・西シベリア地域日本語弁論大会（ノヴォシビルスク）学生の部の質問作成、質問員として参加。
- ・西シベリア地域日本語弁論大会（ノヴォシビルスク）一般の部に審査員として参加。
- ・ノヴォシビルスク子供弁論大会に審査員として参加。

反省点と今後の展望

- ・授業について
 - ・ウォーミングアップとして、授業の始めに教師から学生へ質問を投げかけていたが、時間がかかってしまったり、人数が多いクラスだと発話していない学生の集中が切れてしまうことがあったので、時間を決め、学生同士のペアで会話をしてもらった。予想以上に楽しそうに会話をしていたので、今後も取り入れていきたいと思った。
 - ・12月に行われる日本語能力試験対策の授業を行っているが、結果として合格する学生が少ないように感じている。対策授業を受け持っている1人として、今後の課題の1つである。
 - ・授業時間に口頭試験を行っていたが、人数が多いクラスは時間が押してしまい、学生に負担

をかけてしまった時があった。今後は時間をきっちり決めて行う、または別の日に時間を割り当てて行うなど何かしらの対応をしたいと思う。

・スピーチ指導

原稿チェックと発音指導を行っている。発音指導も大事だが、弁論大会で発表するということ
を早い段階で自覚してもらい、自主性を促すこともとても大事だと感じた。その場で練習は
できるがそれを習得するかは本人のやる気も関係しているように思う。

4. その他の業務

- ・日本語能力試験、本部の手伝い。
- ・ノヴォシビルスク国立工科大学で行われた「外国語会議」の本会議にて発表。
 テーマ「日本語でのコミュニケーションにおける非言語コミュニケーションの重要性」
- ・サンクトペテルブルク日本語弁論大会の書類審査に参加。
- ・イルクーツク「東シベリア地域日本語弁論大会」中級5名分の質問作成。
- ・学内日本映画上映会を実施（計2回）。

5. 青年交流（主なもののみ）

2018年12月：「アニメ・コンピュータゲームの音楽」のコンサートに学生と参加。

シベリア北海道文化センターのクリスマス会に参加し、準備としてセンターの
学生とおにぎり作りをした。

2019年4月：「サムライ写真展」開会式に1年生と参加。

「Библионочь」日本語ブースのお手伝いで、書道を行った。

5月：「スラブの文字と文化の日」のイベントに参加。図書館で読書についてや
お勧めの本などの紹介が行われた。

6月：130番学校の「日本の日」イベントに参加。テーマ「テクノロジーと将来」に
関連したプレゼンテーションを行った。

6. 任地の生活事情

・電気、水、温水の供給状況

9月初めに1日だけ温水が出ない日があった。昨年は5月末に4日ほど温水の供給が停止した
が、今年は7月初めと予定されている。電気、水は特に問題なく供給されていた。

・衣

冬場は-30度近くまで下がるため、ダウンコートや帽子、靴は昨年現地で購入したものを引き
続き使用した。デパートや店舗なども多いため、必要なものは現地でも手に入れることが
できる。春は天気が良くても風の強い日が多いので、フード付きのアウターがあると便利。

・食

大学近くは学生が多い地域のため、カフェなども多い。寮の近くにもスーパーがいくつかある

ので、大抵のものは購入可能である。日本の調味料は中央市場のアジア食材の店でたくさんではないが、いくつか取り扱っている。少々値段が高いが購入は可能である。

・住

大学の教員寮を提供されている。大学へは徒歩で15分ほどの距離である。キッチン、シャワー・トイレ、玄関のある部屋で生活に不自由することはなかった。寮の入り口には常駐の警備員がいるため、特に問題が起こったことはなかった。

・交通の便

大学、寮の近くから町の中心地まで地下鉄（22ルーブル）、バス（22ルーブル）、トロリーバス（21ルーブル）などが通っている。その他、マルシュルートカや路面電車なども走っている。2018年12月に公共交通機関の料金が値上がりした。

・治安状況

特に不安を感じることはなかったが、日が長くなり暖かくなってくると開放的な気分になり、夜、外にいる人も増えるため、冬場より注意が必要な気がしている。

7. 終わりに

2年目の活動は、年間業務の流れを把握していたので、気持ちに余裕を持って行うことができた。ただ、その中でも毎回驚かされることや、1年目には起こらなかったことが新しく起こったりと、刺激を受けることも多かった。今年度の活動を振り返ると、もちろん課題は残るが1年目の反省点をもとに活動できたと考えている。

今回任期途中で怪我をしてしまい、約2か月間日本へ一時帰国をした。初めてのロシアでの治療や急遽一時帰国するための準備など、自分一人では到底対応しきれなかったが、ロシアで支えてくださった大学の先生、学生、日本人教師、在モスクワ日本大使館の皆様、迅速な対応をしてくださった日露青年交流センターの職員の方々、励ましてくださった日露派遣教師の皆様、その他、お世話になった皆様に心より感謝申し上げたい。3年目は健康や怪我にも十分注意をしながら、最後の10か月をしっかりと活動できるよう一層努力していきたい。